

柑橘 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

【温州みかん】

病害虫防除 10月下旬～11月上旬

○ミカンハダニ オマイト水和剤 750倍 133g/水100ℓ 収穫7日前 2回
11月中旬

○貯蔵病害（青かび病、緑かび病、軸腐病） ベフトップジンフロアブル（劇）1,500倍 66ml/水100ℓ 収穫7日前 3回
又は、トップジンM水和剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 5回

※ただし、オマイト水和剤とベフトップジンフロアブルの混用は避けましよう。

* 秋に発生したミカンハダニは果実に移動し着色不良の原因となりますので散布ムラのないように防除しましよう。

浮皮軽減 虫尻期

○フィガロン乳剤 3,000倍 33ml/水100ℓ 散布量 300ℓ/10a

* 7～8月にフィガロン乳剤を散布している園や、樹勢が低下している樹には散布を控えましよう。

摘果

大津・青島は大玉になりやすいので、収穫に向けてそれぞれの樹の着果量に応じ、不良果実を摘果します。（スソ、フトコロの果実から実施し、上部の天なりの大玉は最後に摘果します）

【中晩柑】

病害虫防除

基本防除は上記みかんの項を参照して下さい。

施肥 10月下旬

○秋肥 特選みかん配合 655 100kg/10a （果実内容の向上・樹勢回復のため）

* 中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましよう。

梅

施肥

○土壌改良 10月上中旬 苦土石灰 200kg/10a

○秋肥施用 10月中下旬 梅配合特号 856 120kg/10a

病害虫防除 10月上旬～11月上旬

2週間間隔で2回

○かいよう病 多発園ではICボルドー66D 50倍 2kg/100ℓ 葉芽発芽前まで

※カイガラムシの防除のためアタックオイルを散布する場合は、ICボルドーと混用せず、散布間隔を2週間以上空けてください。

キウイフルーツ

施肥

樹勢回復のために9月に分肥した残り分キウイフルーツ配合40kg/10aを10月中旬に施肥します。9月の施肥を行っていない方はキウイフルーツ配合100kg/10aを10月中旬に施肥しましよう。

お茶

秋整枝 10月上旬 (平均気温で18℃程度になる時期)
一番茶のために、摘採面を揃えます。(葉層は8cm以上)
再萌芽の防止や寒害の影響をうけないように、時期をはずさないようにしましょう。

敷き藁 秋整枝以降
冬季の根に対する乾燥と寒害の防止のため敷き藁をしましょう。

病害虫防除 秋整枝後 11月
○カンザワハダニ アタックオイル 100倍 1畝/水100畝
チャトゲコナジラミ
(晴れた日を選んで防除すると効果的です。)

くり

施肥

○礼肥 化成肥料 14-14-14 60kg/10a
収穫後、直ちに樹勢の回復と翌年の母枝を充実させるために施用します。
イガを園内にそのままにしておくと、病気の発生源となりますので、土中への埋没や園外廃棄しましょう。

かき

収穫

かきの熟度は色で判断します。着色期にも肥大しているため、品種特有の色が十分に現れるまで着色させてから順次収穫しましょう。

施肥 収穫を始めた頃

○礼肥 柿配合 50kg/10a
樹勢の回復と翌年の花芽充実と、着蕾を促進させる大切な肥料です。施肥が早すぎると果実の成熟が遅くなり、逆におそいと吸収されにくくなります。果色が緑色から黄色に変わる頃を目安に、極早生種は9月下旬～10月上旬、富有や次郎では10月中下旬頃行いましょう。

水稻

スクミリンゴガイ対策

今年度も発生拡大を阻止するため、水田では収穫後必ず耕耘(速度はゆっくり、ロータリー回転は速く)を行い、貝を傷つけ越冬させないようにしましょう。また、水路や排水溝なども越冬場所となるので、捕殺、清掃を必ず行いましょう。

～学校給食米(キヌヒカリ、はるみ、コシヒカリ、さとじまん、てんこもり)出荷にご協力ください～

当JAでは、9月25日から11月上旬まで米穀集荷を行います。JAに出荷されたお米の約8割が、学校給食用として供給されています。供給量は不足していますので、1袋でも多くの出荷にご協力ください。(学校給食にお米を供給することで概算金の安定が図られています。)

出荷契約の締結がない方でも、出荷契約外米(概算金の支払いはなく、米穀の販売がすべて終了後お支払いします。ただし、等級が1～3等に入った方は年度内に仮渡金をお支払いします)として出荷が出来ます。詳しくは、最寄りの営農経済センター、支店にお問合せください。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。